

現場に学ぶ医療福祉倫理 (2008/10/22)
@国際医療福祉大学大学院

研究の倫理

～自死遺族支援と実態調査への関わりを通して～

NPO法人 自死遺族支援ネットワークRe
山口和浩



Copyright (C) 2008 NPO Re-Network. All Rights Reserved

分ち合いの会

- スタッフ
遺族、看護師、臨床心理士、行政職員
- 場所
社会福祉法人カメリアの学習施設
- 日時
毎月第2土曜日10時～12時半
- 参加費
1人300円
- 対象
大切な人を自殺で亡くした方
(家族、友人、身近な人)



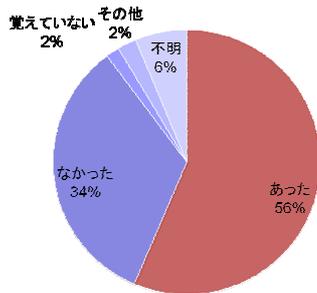
Reの活動

- 自死遺族の分ち合いの会
毎月第2土曜日(長崎県大村市)
- 行政との協働
保健所合同の分ち合いの会
自殺対策への参画

“偏見”を考える

実は . . .

自殺に対する偏見にさらされる遺族



出典)自殺実態白書2008

「語る」

孤立からの開放（心理的・社会的）

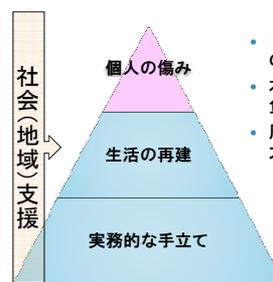
- ・ 同じ体験から記憶を呼び覚ます
- ・ 体験を紡ぐ（故人、社会）
- ▼回復を信じる（見守る、寄り添う）
- ▼納得できるストーリーの構築

偏見

- いやがらせ、就職、結婚、いじめ、・・・。
- 周囲からの避難、風評
- “自殺”であることは言いたくない
- うつ病と自殺の同化
- 実態が分からない

「自殺」が作り出すイメージの払拭
自殺の実態を解き明かす

社会（地域）で支える



- “こころ”と“現実”の問題の分化
- 本人しか背負えないものを背負いやすく
- 周囲はサポートできることを大切に

自殺実態白書2008（第1版より）

- はじめに
- 第1章 自殺の危機経路
- 第2章 自殺の地域特性
- 第3章 自殺の社会的要因
- 第4章 自死遺族が直面している現実
- おわりに

「1000人の声なき声」に耳を傾ける調査

目的	<ul style="list-style-type: none"> ◆自殺に至るプロセスを明らかにし、具体的かつ実践的な自殺対策の立案・実施 ◆死から学び、自殺に追い込まれる人を減らす
概要	<ul style="list-style-type: none"> ◆主体 ライフリンク 東大経済学部SOSプロジェクト ◆期間 2007年7月～2008年6月（継続中） ◆参加者 305名 ◆調査員 ライフリンク、遺族支援に関するスタッフ ◆調査方法 直接面談（平均2時間半）

自殺実態解析プロジェクト

- 解析チーム
ライフリンク、東京大学経済学研究科、自殺対策に取り組む実務家、自死遺族
- 経緯
 - 2007年1月 自殺実態1000人調査を開始
 - 7月 東京大学との合同事業
 - 9月 中間報告（100人分の解析結果）
 - 2008年4月 自殺実態解析プロジェクトチーム発足
 - 7月 自殺実態白書2008（第1版）

実態調査の特徴

- ◇質問票は対策立案が前提
 - ・質問票には各専門家との作成
 - ・「傾向」を示す自殺者統計（警察庁）と具体的プロセスとの相乗効果
- ◇様々な立場からの主体的参加
 - ・自死遺族も「参加者」
 - ・調査と遺族支援は一体となって行われるべきもの

調査の結果概要

- ①自殺の背景には様々な「危機要因」（計68）
- ②自殺時の「危機要因」数は平均4つ
- ③「危機要因」の7割は上位10要因
- ④10大要因が連鎖し、「自殺の危機経路」へ
- ⑤「うつ病⇒自殺」が高い危機連鎖度
- ⑥危機複合度では「うつ病」が最高
- ⑦3段階の危機進行度
- ⑧危機要因の個別の危険性

数字（統計）への私の思い

- 自殺率と自殺者数
- 数字（統計）が示す現実
- 数字（統計）だけでは示すことが難しい事実